

市場区分（プライム編）解説



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2025年11月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

市場区分（プライム編）解説

プライム市場の概要

2022年4月、東京証券取引所は市場区分を再編しました。

従来の「東証一部」「東証二部」「マザーズ」「JASDAQ」の4市場から、「プライム市場」「スタンダード市場」「グロース市場」の3つの市場区分へと変更されました。

プライム市場は、旧東証一部上場企業の約85%が移行した市場であり、2025年現在ではスタンダード市場と同程度の企業数となります。

プライム市場のコンセプト

プライム市場は、以下のコンセプトを掲げています。

「多くの機関投資家の投資対象になりうる規模の時価総額（流動性）を持ち、より高いガバナンス水準を備え、投資家との建設的な対話を中心に据えて持続的な成長と中長期的な企業価値の向上にコミットする企業向けの市場」

これは、海外の投資家からも魅力的に映る企業となるよう設定されたもので、英語での情報開示の促進なども行われています。

市場区分（プライム編）解説

プライム市場の上場基準

プライム市場への上場および上場維持のためには、他の市場より高い基準が設定されています。

上場基準と上場維持基準は、ほぼ同じ水準に設定されています（旧東証一部の上場廃止基準より大幅に厳格化）。

プライム市場の上場基準・維持基準（抜粋）

項目	上場基準	上場維持基準
株主数	800人以上	800人以上
流通株式時価総額	100億円以上	100億円以上
流通株式比率	35%以上	35%以上
収益基盤	最近2年間の利益合計が25億円以上等	（基準なし）
財政状態	連結純資産50億円以上等	純資産額が正であること

市場区分（プライム編）解説

プライム市場の上場基準

各市場のコンセプト比較

市場	コンセプト
プライム市場	グローバルな投資家との建設的な対話を中心に据えた企業向け
スタンダード市場	十分な流動性とガバナンス水準を備えた企業向け
グロース市場	高い成長可能性を有する企業向け

プライム市場のメリット

幅広く資金調達できる

- ・国内外の機関投資家や個人投資家など、多くの投資家が投資対象とするため、大規模な資金調達が期待できます。

TOPIX採用と認知度向上

- ・TOPIX（東証株価指数）の構成銘柄となり、指数に連動した運用を行う機関投資家からの投資が見込めるほか、国内外での認知度が上がります。

社会的信用と企業価値の向上

- ・厳しい上場基準を満たしていることで、取引先や金融機関、求職者などからの社会的信用が高まります。

市場区分（プライム編）解説

プライム市場のデメリット・留意点

上場や維持のコスト

- ・ 高い基準を維持するための監査費用や内部管理体制の維持にコストがかかります。

投資家への対応

- ・ 機関投資家や海外投資家が増えることで、IR活動などの対応が増加します。

買収リスク

- ・ 株式が広く取引されるため、敵対的買収の対象となるリスクが高まる可能性があります。

情報開示

- ・ より高いガバナンス水準が求められ、多くの情報開示が必要となります。

実質審査基準

- ・ 株主数などの形式要件とは別に、企業の継続性や収益性、ガバナンス体制の有効性なども審査されます。